

令和元年度 学校評価における自己評価書

評価：「4：たいへんよく取り組んでいる」「3：よく取り組んでいる方である」「2：少し改善（努力）することがある」「1：まだ改善（努力）しなければならない」

| 評価項目（指標）     |                  | 具体的目標   | 方策・手立て  | 自己評価 | 結果の考察・分析による成果と課題  | 学校関係者<br>評定 | 学校関係者評価コメント  |
|--------------|------------------|---|---|------|---|-------------|--|
| 確かな学力の向上     | 1 分かる！・できる！授業の展開 | 児童一人一人の課題の明確化と、チェックポイントを活かした授業改善によって、楽しく分かる授業を展開する。                         | ○学力の実態分析と授業改善のポイントの共通理解<br>○ガイド学習等を生かした複式指導の充実<br>○業前活動における漢字・計算への取組  | 3    | ○主題研究の時間を中心に実態分析と改善ポイントを共通理解することができた。取組を継続し、教師一人一人の課題を改善していくことでより効果が高まると考えられる。<br>○取組を継続することで、授業を進めることができる児童が増えた。<br>○基礎的な計算はできるようになってきたが、漢字の定着については課題が残る。  | 2           | ○保護者と協力して、家庭での読書を習慣付けることが必要だと考える。<br>○読書通帳の活用をさらに図って児童の意識向上に役立てて頂きたい。<br>○落語活動の原点を再確認して、児童の読解力や表現力の向上を図って頂きたい。 |
|              | 2 読解力の向上         | 要約活動の推進と落語活動の活用によって読解力の向上を図る。<br><br>年間1人当たり140冊以上の本に出逢うようにする。（学校目標1, 800冊） | ○物語文や説明文の要約活動の実施（授業及び業前活動）<br>○落語活動「5つのポイント」を意識した音読の実施<br><br>○貸出冊数の可視化、読み聞かせ活動の実施<br>○教師による内容の聞き返し、児童による本紹介<br>○読書目標設定と読書貯金通帳の活用、読書リーダーの表彰 | 2    | ○要約活動では、要約のポイントや取り組み方を児童に提示してきたが、テスト等で活用する場面が少なかった。<br>○落語活動では毎時間めあてとまとめをすることで、音読への理解が深まった。今後は国語の授業と関連させ、さらに表現できるようにする必要がある。<br>○様々な取組により1800冊は達成できた。（2000冊を目標に再設定）<br>○読書したことを表現させる活動については取組を見直し、より充実を図る必要がある。<br>○目標設定、読書通帳の活用は児童の励みとなった。 |             |  |
|              | 3 学習態度・学習習慣の定着   | 家庭学習「時間15分×学年」、宿題の提出100%をめざす。   | ○教師・保護者による家庭学習の見届け（チェンジ toグッドライフの改善と効果的な活用）<br>○家庭学習の習慣化の推進（児童が家庭学習を振り返る場の設定）<br>○家庭学習の手引きの活用と評価  | 2    | ○見届けを確実にすることで、定着率はほぼ100%となった。<br>○教師とともに振り返ることで、家庭学習の見直しを図ることができた。<br>○学年×15分の基準では取組が難しい学年もあった。基準の見直しを図りたい。   |             |  |
| 豊かな心の育成      | 1 基本的な生活習慣の定着    | 「よい子のやくそく」「不土野っ子あたりまえのこと4ヶ条」を徹底させる。   | ○不土野っ子ファイルによる評価と指導<br>○朝の月目標の唱和による意識づけ  | 2    | ○毎月振り返りは行っているものの、まだ定着には至っていない。不土野っ子あたりまえの4ヶ条」においては児童自身の達成度評価は高いが、実際には達成できていない。<br>○朝の月目標の唱和によって、月目標を意識づけすることができた。   | 3           | ○保護者と児童が共に生活のマナーに取り組んでいくことが大切だと考える。  |
|              | 2 心と命を大切にす教育の推進  | 自己肯定感を高める教育活動を展開するとともに、道徳科を確実に実施し、評価していく。                                   | ○縦割り班による集会活動等の実施<br>○授業記録をもとにした評価<br>○参観日における道徳の授業の実施   | 3    | ○自己肯定感を高める教育活動を行うことで、達成感・充実感を味わわせることができた。<br>○道徳ノートや授業のプリントを基にして評価に生かすことができた。<br>○参観日に道徳の授業を実施することで、保護者と一緒に心と命を大切にすることについて、考えることができた。   |             |  |
|              | 3 危機管理と安全指導の徹底   | 危機管理マニュアルの見直しと改善を図るとともに、児童との安全点検により危険予知能力を高める。                              | ○危機管理マニュアルの充実と周知徹底（洪水時避難計画・避難所運営マニュアルの追加）<br>○児童・職員による安全点検（毎月）の工夫・改善  | 4    | ○危機管理マニュアル等の作成や、村役場・地元消防団と連携した避難訓練の実施により、実際の場面を想定した安全対策及び避難対策について共通理解を図ることができた。<br>○安全点検により、児童にも危機意識を高めさせることができた。   |             |  |
| たくましい体の育成    | 1 体力の向上          | 新体力テスト等から個人の到達目標を設定し、年間を通して児童全員が達成できたと感じられるようにする。                           | ○不土野っ子ファイトでの計画的な体力作り<br>○成果を確かめるための体力テストの実施<br>○水泳・運動会・持久走大会等での個人目標設定   | 3    | ○計画的なファイトや体力テストの実施により、児童は目標が達成できたと実感できた。昨年度よりA、B判定の児童が増えた。柔軟性、握力、持久力の目標達成率が低いのが課題である。   | 3           | ○児童の日頃の活動などにより、体力の向上が見られる。また、運動に対する意欲も感じられる。<br>○むし歯治療率100%は、続けて頂きたい。<br>○食習慣や食のマナーは、保護者と一体となって取り組むことが重要だと考える。 |
|              | 2 健康の保持・増進       | 「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムの習慣化を図り、その達成度100%をめざす。<br><br>むし歯治療率100%をめざす。             | ○毎朝の健康観察や給食時間のチェック<br>○保健だよりや治療勧告による保護者への啓発<br>○メディアコントロールの取組による生活リズムの習慣化<br><br>○給食後の歯みがき指導<br>○全学級での歯科保健指導<br>○個別の健康相談での治療勧告              | 3    | ○保護者は児童が早寝・早起きできていると肯定的に答えた意見が少ない。朝食については保護者、児童共に確実に食べていると実感している。（後は朝食の内容について考える機会の設定が必要）行事等で早寝ができない日も多くあるようだ。<br>○歯みがき指導や治療勧告を通して、むし歯治療率100%を達成することができた。治療後、またむし歯にならないようにする指導が必要である。   |             |  |
|              | 3 食育の推進          | 「食」に関する指導実施率100%及び「弁当の日」の確実な実施をめざす。   | ○学級担任と養護教諭が連携した食に関する指導<br>○段階をふまえた「弁当の日」の実施<br>○保健だよりによる保護者への啓発（月1回）  | 2    | ○保護者、教職員ともに児童が食事のマナーを守れているという認識は低い。（はしの持ち方、食器を持たずに食べる等）   |             |  |
| 開かれた学校づくりの推進 | 1 積極的な情報発信       | 学校通信・学級通信の定期的な発行と、ホームページの内容の充実・更新等を通して保護者・地域に理解と協力を求める。                     | ○PTA・学校評議員会の計画的な実施（年間7回）<br>○学校HPの毎日更新、内容充実（学校目標との関連記載）<br>○役員会・常会等での積極的な情報発信と協力依頼  | 4    | ○PTA評議員会を計画通り実施し共通理解を図ることができた。<br>○学校HPはほぼ毎日更新し学校の様子を発信することができた。また、学校目標との関連を記載し活動の意図を伝えることができた。<br>○各種会等で行事や活動のお知らせや協力依頼をすることができた。  | 3           | ○地域との積極的な交流により、児童や教職員と地域とのつながりがさらに深まってきている。<br>○地域の人も楽しみにしている、学校からの情報発信を引き続き続けていってほしい。                         |
|              | 2 地域人材の積極的活用     | 民謡・落語への指導依頼と、総合的な学習の時間等での地域学習の充実を図る。  | ○民謡・落語指導者との連絡・調整（活動2ヶ月前に完了）<br>○「総合的な学習の時間」の内容検討及び支援（担当職員）<br>○地域人材の掘り起こしと連絡体制の整備・充実（名簿作成）  | 2    | ○連絡調整が遅くなったことがあった。年間を見通して早めの調整がしていく必要がある。<br>○総合的な学習の時間については、3～6年生までを見通した内容の検討を今後行っていく必要がある。<br>○地域人材マップを作成したので、今後も継続的に見直しを行い充実させていく。<br>○3年生の総合的な学習の時間や、1・2年生の生活科において地域の方から学ぶ場を設定した。   |             |  |
|              | 2 地域愛の高揚         | 地域の祭りや神楽等への積極的な参加と、落語や民謡による地域貢献を推進する。                                       | ○地域行事に関する資料の収集と児童への理解推進<br>○ふれあい参観日・学習発表会等の内容充実（相手を意識した発表の工夫等）  | 3    | ○地域行事に関する資料を授業を通して収集するとともに、表現集会等で発表することができた。<br>○ふれあい参観日で質問コーナーを設け、地域の方から昔の生活や地域の伝統等の情報を得ることができた。   |             |  |

【校長所見】

- 本年度も一人年間3回の研究授業を実施し、授業力向上及び学力向上のための工夫改善に取り組み成果を得ることができた。次年度は要約活動をさらに充実させ、読解力や表現力の育成に力を入れていきたい。
- 基本的な生活習慣の定着は今後も保護者・地域との連携して推進していく。また、次年度は縦割り班による集会活動を充実させることで、お互いに切磋琢磨し認め合いながら伸びていこうとする風土作りに努めていきたい。
- 各種受診・治療の勧めを行い虫歯治療率100%を達成することができた。また、体力づくりについても不土野っ子タイムの活用・充実により、体力テストにおいてA・B判定の児童が増えた。
- 学校便り・学校HPを通じて本校における教育活動の意図や成果を発信することができた。また、ふれあい参観日やもちつき体験、サロン訪問等を通して地域貢献や地域愛の醸成を図ることができた。